神戸市「地域子育て支援拠点づくり」事業にもとづく神戸学院大学「子育てサロン『まなびー』」の基盤整備

An attempt to found a new program “Mannavi: Child-Rearing Salon in Kobe Gakuin University” based on the Kobe City project “Construction of child-raising support bases in the community”

道城　裕貴　　清水　寛之　　小石　寛文
前田志壽代　　山上　榮子

（要約）

神戸学院大学人文学部人間心理学科発達心理学領域では，2014 年 10 月から，神戸市の推進する事業「地域子育て支援拠点づくり」（大学を拠点とした子育て支援の展開）に参加し，大学の施設を開放して子育て親子が集まる場を提供する「子育てサロン『まなびー』」を開始した。『まなびー』では週 3 回, 地域の親子連れに地域の子育て関連情報の提供や交換など, 保護者同士の交流やコミュニティを作れる場を提供している。2011 年から続けている「子育てサロン」は，週 1 回，学部学生の実習授業と連携し，運動や音楽，手遊び，遊戯，絵本の読み聞かせ等の特別プログラムとして実施している。参加者は増加しており，今後の研究成果も期待される。

キーワード：子育て，地域支援，発達心理学，社会連携，神戸市事業

神戸学院大学人文学部人間心理学科発達心理学領域

1. はじめに

現在，わが国では急速な少子高齢化が進み，そのことに伴って教育や福祉，社会保障，産業経済などの諸分野において多岐にわたってさまざまな社会問題が浮かび上がってきた。それらに対応するために，これまでの制度の改革や法律の整備，社会基盤の再構築などが切実に求められている。日本政府が推進している「子ども・子育て支援新制度」は，2012 年 8 月に成立した「子ども･子育て支援法」,「認定こども園法の一部改正」,「子ども･子育て支援法及び認定こども園法の一部改正法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」の子ども・子育て関連 3 法に基づく制度である [1]。幼児期の学校教育や保育，地域の子育て支援の充実を進めていくためのもので，2015 年 4 月から全国の市町村で始まることになった。この新制度のポイントは，①質の高い教育･保育の提供，②待機児童の解消，③地域での子育て支援である。一つ目は，具体的には幼稚園と保育所の良い点を一つにして保護者の仕事の有無に関わらず利用できる認定子ども園の普及などである。二つ目は幼稚園，保育所，認定子ども園に加え，少人数の子どもを保育する地域型保育を活用することで待機児童を解消することである。三つ目は，一時預かりや学童保育など身近な地域で受けられる支援の充実である。このように，地域と密着した子育て支援がよりいっそう充実することが期待されている。本稿では，神戸学院大学で実施している「子育てサロン」について，まず最初に沿革および背景を述べ，次に専門教育科目としての位置づけを明確にする。そして,「子育てサロン」の活動内容および年間スケジュール，活動場所などを取り上げる。最後に,「子育てサロン」の評価および今後の課題について考察する。

2. 神戸市の子育て支援事業

神戸市では，神戸市内にある甲南女子大学，神戸大学，神戸親和女子大学，神戸松蔭女子学院大学，神戸常盤大学，神戸市立看護大学において，大学を拠点とした子育て支援事業を行っている。神戸市は，地域の在宅育児親子支援の拠点として市内の大学と連携して「地域子育て支援拠点づくり」を推進しており，大学の施設を開放し，子育て親子が集まる広場を設置して子育て支援の場を提供する大学に対して補助金を交付している。上述の 6 大学はこの事業に基づき，神戸市と連携して，補助金の配当を受けてそれぞれの子育て支援関連事業を実施している。

神戸学院大学（以下，本学という）のある神戸市西区は神戸市の中でも特に子育て世代の流入が多い地域であり，子育て支援を必要としている人数は増加している。例えば，神戸市内の小学校は統廃合が進められる一方で，西区には 2013 年 5 月時点で児童数 800 名を超える小学校が 8 校もある（西区内には小学校が 28 校ある）[2]。しかしながら，西区における大学による子育て支援事業の拠点は，神戸市立看護大学だけであった。

そこで，2014 年 10 月から，本学は子育て支援事業に参画することになった。本学が子育て支援事業を実施することの意義として，大学が拠点となって，①安全な遊び場を提供し,②育児相談等による育児中の家族の心理的負担を軽減し,③子育て親子のコミュニティ

の場の創出に寄与することで，地域・社会貢献が進むと考えられる。このことは，本学が大学憲章で「めざす姿」として掲げている「地域の住民・産業界と共に進化する大学」を具現化するものである。また，地域の方々に大学に足を運んでもらうことにより，本学の研究教育内容や学生，教職員などにじかに触れ，本学を知ってもらう絶好の機会となる。学生や教職員にとっても，子どもたちや保護者と日常的にキャンパス内で触れ合うことによって，自らの立ち居振る舞いを見直し，幅広い世代とのコミュニケーションスキルを磨くきっかけにもなる。このように，限定的な地域・社会貢献という観点のみならず，本学が地域に根差した大学として今後もますます発展していくという長期的展望においても本学キャンパス内で子育て支援事業を行う価値は十分にあると考えられた。

本学ではこの子育て事業に先立ち，2011 年度から人文学部人間心理学科発達心理学領域において３年次生の実習授業と連動した「子育てサロン」を実施している。「子育てサロン」は，週１日約２時間，地域の親子連れに大学に来てもらい，運動や音楽，手遊び，遊戯，絵本等の活動を行うといった子育て支援のプログラムである。連携先は神戸市西区役所であり，広報や情報共有等をお願いしている。「子育てサロン」では，赤ちゃん連れのお母さんと大学生（学部学生･大学院生）が交流し，また，お母さん同士も交流を行い，子育て関連情報を共有する。また，お母さんにとって息抜きができる，子どもにとって普段の家庭と違った遊びと学びの体験の場となると考えられた。

2014 年 10 月から，この「子育てサロン」を「子育てサロン『まなびー』」と名称を改め，週３回に拡張し，子どもたちが自由に遊び，それを保育士や保護者が見守るといった「プレイルームの開放」を基本とした子育て支援事業を行うことになった。現在までの「子育てサロン」はそのうちの１回に位置づけ，水曜日の午後の特別プログラムとして継続している。

3. 現在までの「子育てサロン」

3-1 「子育てサロン」と発達心理学関連実習授業

まず，現在までの「子育てサロン」（現在は特別プログラム）について説明する。「子育てサロン」は，本学人文学部人間心理学科発達心理学領域の３年次生を対象とした専門教育科目「発達心理学実習Ⅰ」と「発達心理学実習Ⅱ」の実習授業と連携した活動である。「発達心理学実習Ⅰ」と「発達心理学実習Ⅱ」は，本学人文学部人間心理学科発達心理学領域に配属された３年次生約 45 名が３年次生の前期，後期と履修する実習授業である。授業では，実際に就学前の子どもたちと関わる「子育てサロン」，保育所実習に加え，施設見学を行う児童相談所実習，家庭裁判所実習，高齢者施設実習等がある。３ゼミ（演習）合同の発達心理学領域の専攻生約 45 名全員で実習を行うこともあれば，それぞれのゼミごとに約 15 名程度の規模で行うこともあり，単一の年度において豊富な実習プログラムが編成されている。

人間心理学科では，２年次生後期から発達心理学領域，社会心理学領域，医療心理学領域，臨床心理学領域という４領域のゼミ配属が決定する。それまでは，各領域の授業を万遍な

く学ぶが，発達心理学領域ではまず1年次生の「発達心理学入門実習」において，絵本の読み聞かせ，絵本の作成といった大学内での実習活動を通して子どもの発達を学んでいく。「発達心理学入門実習」の後は，「発達心理学」「青年心理学」「家族心理学」「認知心理学」等を履修し，発達心理学及びその関連分野の基礎を学ぶ。3年次生になり，1，2年次生で学んだ心理学の知識をもとに，「発達心理学実習Ⅰ」と「発達心理学実習Ⅱ」において子どもたちとの関わりや大学外の心理学関連の施設や現場への見学を通して応用実践の知識を学ぶのである。3年次生の実習では，1年次生の「発達心理学入門実習」で作成した絵本を学内施設や保育園等で実際に子どもたちに読み聞かせるなど，連動して授業を実施している。

3-2 「子育てサロン」の活動内容および年間スケジュール

「子育てサロン」は，神戸市西区を中心とした地域に住む親子連れ（就学前児とその保護者）に大学に来てもらい，運動や音楽，手遊び，遊戯，絵本等の活動を行うといった子育て支援のプログラムである。「発達心理学実習Ⅰ」と「発達心理学実習Ⅱ」を履修する3年次生が主体となり，ゼミ（演習）ごとに活動内容を企画し，準備をして，当日のプログラムを進行する。2011年度は2011年5月～2012年3月まで（全27回），2012年度は2012年5月～2013年2月まで（全28回），2013年度は2013年5月～2014年2月（全28回）まで実施した。4月は事前指導であり，8月，9月は夏季休業期間，2，3月は入学試験や春季休業期間であるため，実施していない。なお，「子育てサロン」は平成23～25年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「地域力再発見をめざす大学と地域との連携・協働による実践的研究」および平成26年度本学人文学部研究推進費の助成を受けた。

表1は，2014年度の「子育てサロン」の年間スケジュールである。「からだをうごかそう」「音であそぼう」「つくってあそぼう」「絵本の世界を楽しもう」の四つの実習テーマがあり，2014年度は三つのゼミ（小石ゼミ，前田ゼミ，道城ゼミ）が1年間で4回ずつ担当した。「院生」と表記された回は，学部学生の授業がない期間や定期試験期間等，本学大学院人間文化学研究科心理学専攻臨床心理学系及び心理学系の大学院生が中心となり，プログラムを実施する回である。学部学生は発達心理学の実習の一部として「子育てサロン」を経験するが，大学院生は発達臨床心理学教育の一環として実践活動に積極的に参加している。

表１　2014 年度「子育てサロン」年間スケジュール

	月	日	担当	実習テーマ
1	5 月	7 日（水）	院生	つくってあそぼう
2		14 日（水）	道城ゼミ	からだをうごかそう
3		21 日（水）	前田ゼミ	音であそぼう
4		28 日（水）	小石ゼミ	つくってあそぼう
5	6 月	4 日（水）	院生	絵本の世界をたのしもう
6		11 日（水）	道城ゼミ	遠足（じゃがいも掘り）
7		18 日（水）	前田ゼミ	からだをうごかそう（遠足予備日）
8		25 日（水）	小石ゼミ	音であそぼう
9	7 月	2 日（水）	院生	絵本の世界をたのしもう
10		9 日（水）	院生	つくってあそぼう
11		16 日（水）	院生	からだをうごかそう
12	10 月	1 日（水）	院生	音であそぼう
13		8 日（水）	院生	からだをうごかそう
14		15 日（水）	院生	絵本の世界をたのしもう
15		22 日（水）	前田ゼミ	遠足（さつまいも掘り）
16		29 日（水）	小石ゼミ	からだをうごかそう
17	11 月	5 日（水）	道城ゼミ	音であそぼう
18		12 日（水）	前田ゼミ	つくってあそぼう
19		19 日（水）	小石ゼミ	遠足（落花生掘り）
20		26 日（水）	道城ゼミ	つくってあそぼう
21	12 月	3 日（水）	院生	絵本の世界をたのしもう（遠足予備日）
22		10 日（水）	院生	音であそぼう
23		17 日（水）	院生	つくってあそぼう
24	1 月	7 日（水）	院生	からだをうごかそう
25		14 日（水）	院生	絵本の世界をたのしもう

「子育てサロン」は，学期期間中の毎週水曜日の 13 時 15 分から 15 時までの約 2 時間のプログラムである。毎回のプログラムにおいては，①「はじめの挨拶とお名前呼び」，②集団活動（約 20 分），③自由遊び，④終わりの挨拶と手遊びといった流れで行っている。写真 1 は，2013 年度の 11 月 6 日（水）の「音であそぼう」の当日プログラムと活動の様子である。上記①の「はじめの挨拶とお名前呼び」は当日の司会進行役の学生が自己紹介をした後に，一人ずつ子どもの名前を呼ぶ。名前を呼ばれた子どもは「はい」と元気よく返事をして司会進行役の学生のところまでタンバリンを叩きに行く。乳児には学生が近寄り，タンバリンを叩いてもらう。上記②の集団活動はその日によって異なり，写真 1 の日にはハロウィンの後だったために，魔女の扮装をした学生が「くまさんになーれ」とかけ声をして，クマ，ウサギ，トラなどのお面を子どもたちにかぶらせ，音楽会と題した楽器演奏を行った。上記③の自由遊びは，室内のボールプールなどの遊具や玩具で自由に遊ぶ

時間帯である。学生たちは危険なことが起きないように，子どもたちの安全を確保しながら，自由に遊ばせる。上記④では終了時間前に遊具や玩具を片付けた後，「さよならあんころもち，またきなこ」といった定番のお別れの手遊びをして終了となる。②の集団活動，③の自由遊びはその日によって異なるが，①の「はじめの挨拶とお名前呼び」と④終わりの挨拶と手遊びは1年を通して変わらず行っている。

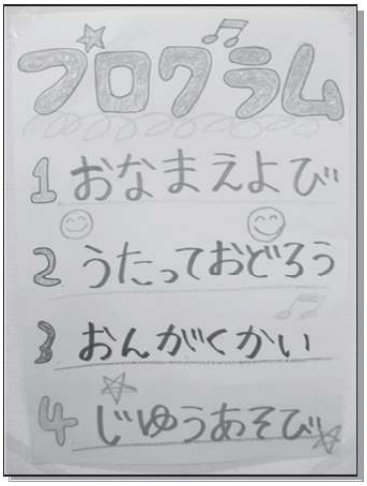

写真1　2013年11月6日（水）「音であそぼう」の当日プログラムと活動の様子

さらに，2013年度から一般社団法人あとりえクルレの協力を得て，「じゃがいも掘り」，「さつまいも掘り」，「落花生掘り」の3回の遠足を実施している（表1参照）。本学からはバスで20分程度の距離である，神戸市西区櫨谷にある畑で行っている。60名を収容できる大型バスを借り，参加親子は15組と限定した事前登録制としている。2013年度の「さつまいも掘り」は雨天により中止となったため，2014年度からは遠足の予備日を設けるようになった。

3-3　活動場所および環境

「子育てサロン」では，本学14号館3階の行動観察室，教材準備室5をプレイルームとして，教材準備室4を授乳室として使用している。図1は，「子育てサロン」で使用している部屋の全体の様子を表している。行動観察室には絨毯が敷かれており，すべり台，ダンボール素材で組み立てられた家（かくれんぼうハウス）やおままごとセットなどが置かれている。壁には大きなディスプレイが架かっており，DVD等を見ることも可能である。玩具は乳幼児用のブロック，おままごと，人形，パペットなど多岐にわたり揃えている。行動観察室の外側の廊下には長机が置かれており，そこで親子連れは受付を行う。受付では，名札シールをつけてもらう。行動観察室の入り口には，乳幼児用の靴箱が置かれており，靴を脱いで入室する。行動観察室には隣接した記録制御室と呼ばれる小さな部屋があり，マジックミラー越しに行動観察室の様子を観察できる仕組みとなっている。2012年度にビデオカメラシステムを一新し，行動観察室の天井に設置された2つのビデオカメラおよびマイクロフォンから部屋の様子を詳細に記録できるようになった。次の週に「子育

てサロン」を実施する学生や，行動観察の体験学習のために，授業等で使用している。保護者に対しては，個人ごとに初回に，行動観察やビデオカメラによる撮影について，使用目的等を説明した上で文書での同意を得ている。行動観察室と廊下を挟んで向かい側にある教材準備室５は同じく絨毯の部屋であり，中には2013年度に購入したボールプールが置いてある。写真２は，ボールプールの写真である。毎回，集団プログラムが始まった後に，長いウレタン製マットを出すことで行動観察室から靴を脱がずに教材準備室５に行き来できるようにしている。廊下の奥にある階段や他の部屋に行かないように，子ども用の衝立を廊下に置いている。教材準備室５の一角には絵本コーナーがあり，数冊の絵本を展示している。人間心理学科では前述の授業等で使用するため，絵本をおよそ千冊以上保有しており，定期的に絵本コーナーの絵本を入れ替えている。参加人数の増加に伴い，行動観察室の遊具や玩具，教材準備室５のボールプールなど，毎年度，教材（遊具，玩具，絵本など）や支援環境の充実を図っている。教材準備室３は学生が実習授業で使用しており，「子育てサロン」の準備，事前事後指導等を行っている。心理検査実習室は両側に小さな部屋が３部屋ずつあり，学生の更衣室として使用している。なお，「子育てサロン」の参加者が怪我をした場合の傷害保険への加入や，参加学生への風疹，麻疹の抗体検査の義務付けなど，健康安全管理などにも配慮している。

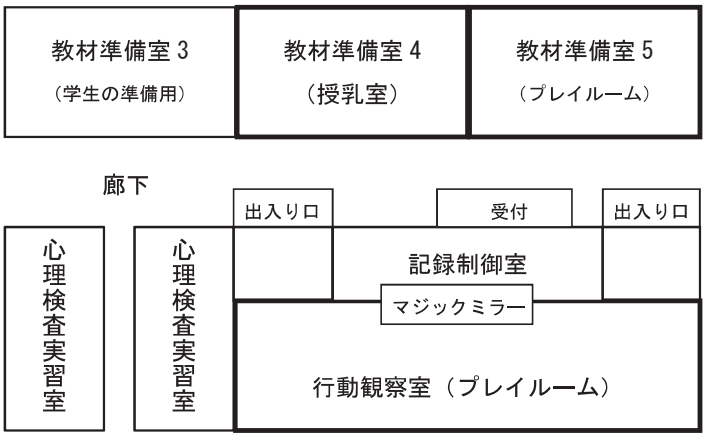

図１　「子育てサロン」で使用している部屋の全体図（14号館３階）

写真２　教材準備室５のボールプール

3-4 「子育てサロン」の参加者および質問紙結果

「子育てサロン」は2011年度から週1回恒常的に実施するようになり，現在4年目となる。2011年度までは，年に2，3回のプログラムであり，参加者は10名にも満たなかった。しかし，週1回恒常的に実施するようになってから，参加人数は飛躍的に増加した。図2は「子育てサロン」ののべ参加人数の変化を表している。2011年度ののべ参加者は子ども332名，親273名，2012年度は子ども380名，親314名，2013年度は子ども582名，親436名であり，年々参加人数が増加している。2013年度時点の参加した母親の平均年齢は35歳であった。図3は，2011年度から2013年度における1回のプログラムの平均参加人数を表している。2011年度は子どもが10名，親が10名であるのに対し，2012年度には子ども14名，親11名，2013年度は子ども20名，親15名と増加した。子どもの人数が親より多いのは，兄弟で連れて来られるケースが多いためである。このように，「子育てサロン」を恒常的に実施することにより，地域とのつながりが次第に深まってきたと考えられる。

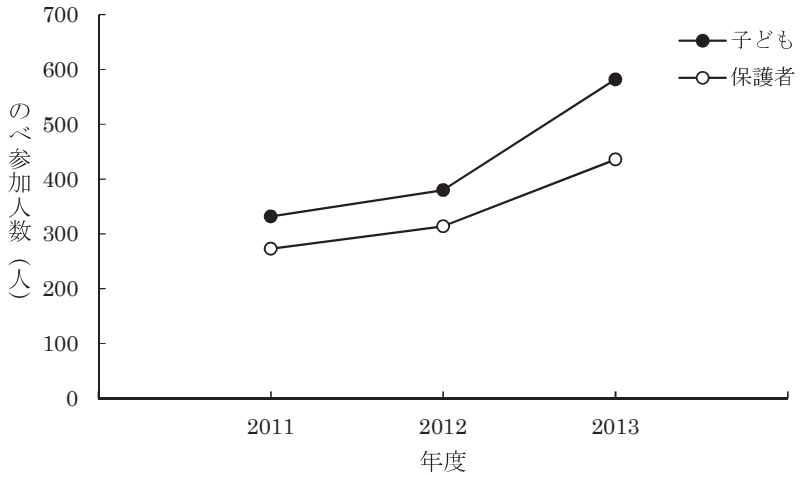

図2　2011年度から2013年度までの子育てサロンのべ参加人数の推移

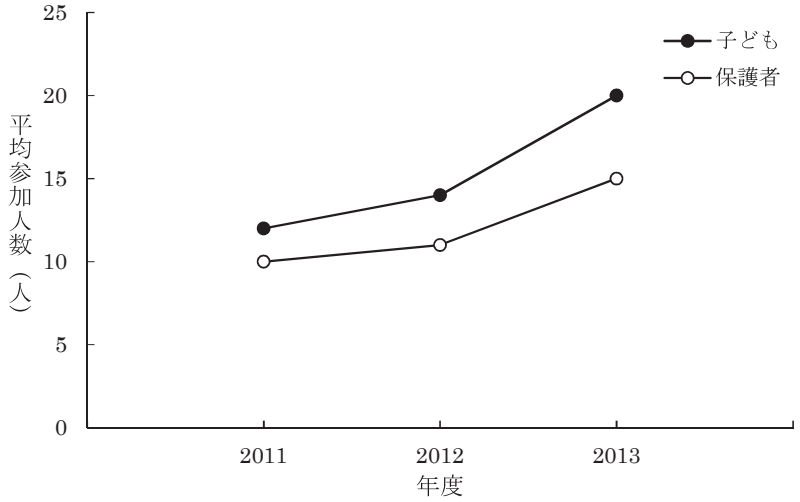

図3　2011年度から2013年度までの子育てサロン平均参加人数の推移

毎年度末頃に保護者に自由記述を中心とした質問紙調査を実施するなどして，「子育てサロン」についての意見や感想を得ている。2013 年度の質問紙調査では，人気のプログラムの順位付けを求めた。その結果，第１位が「遠足（じゃがいも掘り）」，第２位が「遠足（落花生掘り）」，第３位が「大きなかぶ（絵本の世界を楽しもう）」，「玉入れ（からだをうごかそう）」，「雪合戦（からだをうごかそう）」であった。遠足は上述のように，大学外の畑にバスで行くという内容であり，１年に３回しかないということもあり，人気が出たと考えることができる。「大きなかぶ（絵本の世界を楽しもう）」は５月に行われ，絵本としても有名な「大きなかぶ」の朗読と劇であった。登場人物のお面をかぶり，畑に見立てたダンボールから，画用紙等で作成した大きなかぶを子どもたちと一緒に引き抜くという動きを取り入れた活動であった。「玉入れ（からだをうごかそう）」は 10 月の運動会の季節に行われたプログラムであり，乳幼児向けの手作りの玉入れに柔らかい紙で作成した玉を入れる遊びであった。「雪合戦（からだをうごかそう）」は，12 月のプログラムであり，ダンボールに雪だるまを描き，身体の部分に穴を開けたものに新聞紙で作成したボールを投げてもらう活動であった。いずれも実習テーマに違いはあるものの，身体を使った視覚的にわかりやすい活動であることが明らかとなった

自由記述においては「子育てサロン」の良い点として，「子どもが楽しそうに遊んでいる」，「家ではできない遊びができる」，「同年代の子どもと遊ばせることができる」，「母と１対１でなく，たくさんの人と関わり，刺激を受けた」，「母親同士で仲良く話ができる，リフレッシュできる」などの感想が得られた。改善点，要望としては，「親子で遊ぶ手遊びや工作の時間がもっとほしい」，「場をまとめるリーダーがわかりにくく，まとまっていないときがあった」，「風船の剣で大きい子たちが遊んでいるのは危なそうである」，「来年度も遠足を楽しみにしている」などが挙げられた。つまり，子育てサロンは，大学近隣の地域において好評を得ており，子育て支援において基盤となる子どもと保護者の居場所を提供するだけでなく，家でできない遊びや他の同年代の子どもとの交流の場を提供するなど，家庭での子育て環境を広げる手助け（子育て支援）につながる成果を生み出している。

3-5　2012 年度「発達心理学実習Ⅰ・Ⅱ」の受講学生による実習プログラム評価

2012 年度「発達心理学実習Ⅰ・Ⅱ」を受講した学生に対して，授業最終回にこの実習を振り返って「最も楽しかった活動」から順に３つを挙げ，その理由も答えるように求めた。この順位結果を表２に示す。表２から男女ともに，「楽しかった活動」の第１位に「子育てサロン」を挙げる者が 26 名中 14 名と最も多かった。その理由としては「普段なかなか触れ合うことのできない年齢の子どもと触れ合えたから」，「めったに交流をもてない子どもたちと遊べた。お母さんたちとも話ができた」といった座学では得られない体験を肯定的に捉えていることが分かった。さらに，保護者をはじめ学外の方々と交流する機会を得たことも学生自身の社会性の向上につながったと推察できる。こうした経験が学生の進路選択に望ましい影響を及ぼすことも十分に考えられる。

表２　2012 年度「発達心理学実習Ⅰ・Ⅱ」受講学生による実習プログラムの評価

実施対象：神戸学院大学人文学部人間心理学科発達心理学領域 3 年次生 26 名
（男性 15 名、女性 11 名）

実施日：2013 年 1 月 16 日（水）3 時限

男子学生			女子学生		
1 位	子育てサロン	8 名	1 位	子育てサロン	6 名
	サッカー実習	4 名		保育所実習	4 名
	保育所実習	3 名		家庭裁判所実習	1 名
2 位	保育所実習	10 名	2 位	子育てサロン	5 名
	子育てサロン	2 名		保育所実習	3 名
	子育てサロン準備	1 名		児童相談所実習	1 名
	高齢者施設実習	1 名		家庭裁判所実習	1 名
	サッカー実習	1 名		サッカー実習	1 名
3 位	家庭裁判所実習	5 名	3 位	高齢者施設実習	4 名
	サッカー実習	3 名		子育てサロン	2 名
	子育てサロン	2 名		サッカー実習	2 名
	子育てサロン観察	2 名		保育所実習	2 名
	保育所実習	2 名		家庭裁判所実習	1 名
	高齢者施設実習	1 名			

4.「子育てサロン」から「子育てサロン『まなびー』」へ

参加者が増加し，好評を得ている「子育てサロン」であるが，2014 年 10 月から神戸市の補助金を受け，「子育てサロン『まなびー』」に名称を変更して新たに実施することになった。活動内容としては，①気軽にかつ自由に安全に安心して利用できる交流の場の提供，②育児や発達などの相談を大学の教員につなぐことも可能，③地域の子育て関連情報の提供や交換など，保護者のコミュニティを作れる場の提供，④水曜午後の子育てサロンなどの特別プログラムを年間 12 回以上実施する，の 4 つが挙げられる。繰り返しになるが，現在までの「子育てサロン」は週 1 回の特別プログラムとして実施し，それ以外の時間帯はプレイルームの開放を行い，見守りがメインとなる。保護者への通知においても，預かり保育ではないことと特別プログラムとの違いを明記するようにした。現在までの「子育てサロン」を利用したことがある親子連れを中心に案内を送ったため，事前登録制となっている。その他，大学のホームページ，神戸新聞などにも掲載されたため，順次参加者を増やしていく予定である。表 3 は，「子育てサロン『まなびー』」の開室スケジュールである。開室は，原則として火曜日，水曜日，木曜日の 3 日間の 10 時から 16 時（12 ～ 13 時は昼休み休憩）であり，祝祭日，入学式，卒業式等の大学の行事日，定期試験，入学試験，一斉休業を除く年間 130 日となる。2014 年度は 10 月からの開室であるため，63 日となる。特別プログラムは水曜午後の「子育てサロン」だけでなく，「アートであそぼう」等の他

の活動も予定している。

「子育てサロン」等の特別プログラムは，学部学生や大学院生がプログラムを実施するが，プレイルーム開放時の見守りについては神戸市の補助金交付の要件でもある「子育ての知識と経験を有する専任の者２名以上」を配置することとなった。子育ての知識と経験を有するという条件を満たす者として，保育士および幼稚園教諭の免許を保有している経験者を募集し，４名を「見守りスタッフ」として採用した。それ以外にも，特別プログラムや全体をまとめる役割として，同じく保育士の免許を保有し，神戸市内の一般社団法人あとりえクルレで理事を務める経験者１名を配置している。

場所は「子育てサロン」と同様に，行動観察室，教材準備室５をプレイルームとして，教材準備室４を授乳室として使用しているが，このたびの「子育てサロン『まなびー』」の実施に伴い，乳幼児用トイレ，流し台等を新たに設置し，照明器具も整備した。調乳用ポット，紙おむつ専用ダストボックス等を購入するなどして，一層の設備の充実を図る予定である。参加者は都合のよい時間帯に訪れ，受付に置かれている名簿にチェック印を入れ，名札シールを貼り，入室する。「見守りスタッフ」が見守るなか，自由に遊具や玩具で遊ぶ。

表３　「子育てサロン『まなびー』」の開室スケジュール

	火曜日	水曜日	木曜日
午前 10:00-12:00	プレイルーム開放	プレイルーム開放	プレイルーム開放
昼休み 12:00-13:00		施錠	
午後 13:00-16:00	プレイルーム開放	特別プログラム 「子育てサロン」 もしくは プレイルーム開放	プレイルーム開放

5. 今後の課題

神戸市西区においては子育て支援事業の拠点があまりに少なく，神戸市からも本学がその機能を担うことに多大な期待が寄せられており，神戸市と連携して事業を実施することは地域との関係強化にもつながる。神戸市という自治体からの要請は，すなわち市民からの要請であると考えれば本学が地域住民とともに進化する大学を実現するためにも，神戸市と連携して子育て支援事業を推進する意義は大きい。

心理学的な観点からもこの「子育てサロン『まなびー』」を見たとき，いくつかの大きな意義が認められる。その一つは，発達心理学に関連した子育て実践研究が促進されるこ

とである。発達心理学において，子育てをどのように支援するかはきわめて重要な問題であると指摘されている（e.g., 福田 , 2012）。現在までに地域社会における子育てに関する要求を詳細に捉え，具体的にどのような支援が必要でかつ有効であるかについての評価基準や評価システムを構築するための研究はまだ十分になされていない。この「子育てサロン『まなびー』」は，そうした実践研究の萌芽となりえるだろう。

「子育てサロン『まなびー』」には，また別の意義も認められる。すなわち，「子育てサロン」に訪れる子どもたちが「子育てサロン」に参加することによって，年齢に応じたすこやかな発達・成長が促進されるかどうかといった点である（小石 , 2007）。「子育てサロン」への参加を通じて子ども自身が自らの内的世界を豊かなものにするとともに，子ども集団の社会的なルールやマナー，エチケットなどを理解し，周囲の大人からの指示に従うことがより円滑にできるようになると考えられる（e.g., 麻生 , 1996; 子安 , 1999; 守屋 , 1994; 内田 , 1986）。

保護者への質問紙調査及び対象児の行動観察により，「子育てサロン」に参加する子どもたちへの心理学的な効果を検討することが可能になる。例えば，「子育てサロン」が始まる５月ごろに，保護者を対象として子どもの社会性発達を測る質問紙調査を実施する。そして，「子育てサロン」が終了する翌年２月ごろに同様の質問紙調査を行い，その変化を検討する。あわせて，毎回の「子育てサロン」で得た行動観察記録データを分析し，子育てサロンにおける子どもたちの行動変化を捉える。「子育てサロン」に参加する保護者に対して，育児環境や育児幸福感，ストレス，負担感に関わる質問紙調査を実施し，大学を子育て支援の場として利用する保護者の育児環境と育児に関わる認知・感情との関連性について検討する。保護者への質問紙調査からは，育児環境と育児幸福感などの育児に関わる認知・感情との関連性が明らかになるであろう。つまり，子育て支援活動に参加する保護者が育児にどのように関わっているかの実態の一端が明確化される。

保護者については，成人期における自己の発達・成長を見つめ直す機会として「子育てサロン」が何らかの影響を及ぼし得るのかどうかという問題が心理学的に興味深い。例えば，保護者に対して自己発達に関する質問紙調査や面接調査を実施することが考えられる。

さらに，「子育てサロン」に参加する学生にとって，「発達心理学実習」という実習科目の履修を通じて，発達心理学に対する知識や技能，さらには子育てに関する意識の向上が期待される。学生個人の子育てレディネス（例えば「親性準備性（将来親となる資質）」がどのように変化するのか）を質問紙調査によって明らかにすることも可能である。「子育てサロン」に参加することで学生の子育てレディネスが高まること，また子育てスキルがすでに十分に高い学生は「子育てサロン」等の実習活動への積極的参加度がさらに高まることが予測できる。

本学の子育てサロンと同様の子育て支援に関わる取り組みは，他大学においても行われているが，幼稚園教諭や保育士という資格取得に関わる実習授業が主体であり，心理学部や心理学科で実施しているところは少なく，心理学的実践研究はほとんどなされていない。そのため，心理学的な視点で子育て支援活動の効果を明らかにすることには大いに意義がある。乳幼児をもつ母親のストレス低減とソーシャルサポートとの関連（石・桂田，

2010），育児への負担感・不安感とサポートとの関連（荒牧・無藤 , 2008）について，大規模な質問紙調査を実施した研究はいくつか行われている。しかしながら，大学における大学生による子育て支援活動の効果や，地域の中での支援活動の位置づけ，さらに学生の心理的変化を明らかにする研究はほとんど行われていないため，本研究の成果は大いに期待できる。

謝辞

本論文で取り上げた神戸学院大学「子育てサロン『まなびー』」については，神戸市の地域子育て支援拠点づくり」による補助金の獲得に向けて，神戸学院大学社会連携部に多大なご尽力をいただきました。本来ならば，教職協働の一つのモデルとして，この実践活動プログラムの関係者である人文学部人間心理学科発達心理学領域と社会連携部の両者が本論文の著者となるべきところですが，社会連携部からのお申し出により，このような体裁をとりました。社会連携部の方々には，心から謝意を表します。

注

1. 内閣府 , (2014), 子ども・子育て支援新制度 http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/index.html
2. 神戸市教育委員会 , (2014), 神戸市立学校園 学級数・児童生徒数等
   http://www.city.kobe.lg.jp/child/education/children/

引用文献

［１］ 麻生武 , (1996) ,『子どもと夢』, 東京都 , 岩波書店 .

［２］ 荒牧美佐子・無藤隆 , (2008) ,「育児への負担感・不安感・肯定感とその関連要因の違い : 未就学児を持つ母親を対象に」,『発達心理学研究』, 19/2, 87-97.

［３］ 福田佳織 , (2012) ,『笑って子育て－物語でみる発達心理学－』, 東京都 , 北樹出版 .

［４］ 小石寛文 , (2007) ,『子どもの発達と心理』, 東京都 , 八千代出版 .

［５］ 子安増生 , (1999) ,『幼児期の他者理解の発達　心のモジュール説による心理学的検討』, 京都府 , 京都大学学術出版会 .

［６］ 守屋慶子 , (1994) ,『子どもとファンタジー　絵本による子どもの「自己」の発見』, 東京都 , 新曜社 .

［７］ 石暁玲・桂田恵美子 , (2010) ,「保育園児を持つ母親のディストレスとソーシャル・サポートとの関係 : 育児不安と精神的健康度に焦点を当てて」,『家族心理学研究』, 27/1, 44-56.

［８］ 内田伸子 , (1986) ,『ごっこからファンタジへ　子どもの想像世界』, 東京都 , 新曜社 .